

氏名	河野博行
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4072 号
学位授与の日付	平成17年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Stool decay-accelerating factor as a marker for monitoring the disease activity during leukocyte apheresis therapy in patients with refractory ulcerative colitis (便中DAFは白血球除去療法治療中の難治性潰瘍性大腸炎の病勢監視のマーカーとなる)
論文審査委員	教授 谷本 光音 教授 榎野 博史 助教授 猶本 良夫

学位論文内容の要旨

我々は以前補体制御蛋白の1つである decay-accelerating factor(DAF,CD55)の潰瘍性大腸炎(以下UC)患者便中濃度が大腸粘膜の炎症の重症度と相関して上昇していることを示した。今回我々は白血球除去療法(CFLA)にて治療を受けたステロイド抵抗性活動期UC患者において便中DAF濃度が病勢のmarkerとして有用であるかどうか検討をおこなった。

21名のステロイド抵抗性活動期UC患者に対し週1回 4週間CFLAをおこなう毎週便中DAF濃度をimmunoassay法にて計測した。

治療後21名中11名(52%)のUC患者が緩解となった。便中DAF濃度は有効例において減少し、統計的有意差はCFLA2回後から治療前と比較し($P<0.003$)、また無効群との間に($P=0.024$)認めた。CFLA2回後の便中DAF濃度減少率は有効群(中央値90% 22-90%)と無効群(中央値13% 307-94%)の間に有意差を認めた。($P=0.008$)。WBCやCRPなどの血液検査では治療中及び治療効果による差異は認められなかった。

便中DAF濃度は白血球除去療法加療中の潰瘍性大腸炎患者における有用な臨床反応性のマーカーの1つである。

論文審査結果の要旨

本研究は、補体制御因子のひとつである DAF の潰瘍性大腸炎 (UC) 患者便中濃度が、UC 患者大腸粘膜の炎症の重症度と相関していることから、白血球除去療法 (CFLA) 中の病勢マーカーとしての有用性を検討したものである。週1回、4週間のCFLAの経過中に得られた患者便中DAF濃度は、CFLA2回目以降に有意に有効群で減少し、無効群の早期診断が可能であることが示された。急性増悪を来したUC症例において速やかな治療選択を行なう際に臨床的に重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認めます。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。